

4 官兵衛の妻は志方城主の娘

加古川地方が登場しません。すこし先を急ぎます。

官兵衛が妻をめとるのは、永禄十年（1567）、二十二才の時でした。

官兵衛の妻は志方城主の娘

少し、『播磨灘物語』（司馬遼太郎）から引用します。

・・・藤兵衛（小寺政職）が官兵衛にめあわせたのは、播州の志方村を領する小さな城主で、櫛橋豊後守の娘である。

櫛橋氏も播州の豪族がたいていそう称しているように赤松氏の支族であった。



いずれにせよ備前から流れてきた家のせがれは、もったいないような話である。

藤兵衛にすれば、「黒田の家も、土地に根ができて心強かろう」と、心を配ったあげくのことである。

もっともうちわったところは、黒田氏のためというより、このようにして一番家老（官兵衛門の父・職隆のこと）の心をつなぎとめて、この乱世を切り抜きたいということにあったのかもしれない・・・

官兵衛の姫路城は？

話の都合で「姫路城」のことを、先に少し説明しておきます。

官兵衛の生まれたのは姫路城ですが、小寺の御着城ではありません。

今の姫路城の場所に小さな構（かまえ）があり、そこで彼は生まれました。

後に秀吉がその場所に城を築き、さらに、江戸時代・池田氏が今の姫路城を築いたのです。

官兵衛の生まれた姫路城は、御着城の西を守るための小さな建物にすぎませんでした。

*写真：志方城跡にある観音寺（志方町）